

令和6年度病害虫発生予察情報 発生予報第8号(9月)

令和6年9月13日
発表：福島県病害虫防除所

1 果樹

台風の接近やゲリラ豪雨の発生など、8月にまとまった降雨があった地域では、今後、病害の発生が増加する恐れがある。また、東北地方の1カ月予報（令和6年9月12日発表）では、気温が高い予報となっており、害虫の発生に影響を及ぼすことが考えられる。薬剤防除は終盤の時期となっているが、各病害虫の発生状況によっては、翌年への越冬源を減少させるため、追加で防除することも検討する。

作物名	病害虫名	地方	発生時期	発生量	予報の根拠	防除上注意すべき事項
リンゴ	斑点落葉病	全域	—	平年並	新梢葉での発生ほ場割合は平年並であった(±)。	
	褐斑病	全域	—	やや多い	新梢葉での発生ほ場割合は平年並であった(±)。 東北地方の1カ月予報(令和6年9月12日発表)によれば、向こう1カ月の降水量は多いと予想されている(+) 。	本病の発生が多い場合は、晩生種特別散布後も追加の薬剤散布を検討する。 本病原菌は主に罹病落葉で越冬するため、発生園では落葉を適切に処分し、菌密度低下を図る。
	炭疽病	全域	—	平年並	果実での発生ほ場割合は平年並であった(±)。	被害果は見つけしだい摘除し適切に処分する。
	ハマキムシ類	全域	—	平年並	果実被害の発生ほ場割合は平年並であった(±)。	
モモ	せん孔細菌病	中通り	—	平年並	新梢葉、果実での発生ほ場割合は平年よりやや低かった(—)。 東北地方の1カ月予報(令和6年9月12日発表)によれば、向こう1カ月の降水量は多いと予想されている(+)	越冬菌密度の低下を図るため、天候に注意しながら、無機銅剤を使用した秋期防除を確実に実施する。
	ハマキムシ類	中通り	—	平年並	果実での被害発生ほ場割合は平年並であった(±)。	
ナシ	黒星病	全域	—	平年並	新梢葉、果実での発生ほ場割合は平年並であった(±)。	翌年の芽基部病斑の発生を抑制するため、りん片生組織の露出が多くなる10月上旬～11月上旬頃に秋期防除を実施する(令和4年度普及に移しうる成果参照)。 本病原菌の越冬密度を下げるため、落葉は丁寧に集めて適切に処分するか、乗用草刈機等を用いた粉碎処理を行う。

ナシヒメシ ンクイ	全域	－	やや多い	果実被害の発生ほ場割合は、平 年より高かった（＋）。	本種第5世代幼虫は、9月下旬 頃まで発生することがあるので （令和3年度参考となる成果 http://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/504234.pdf ）、果実被害が例年より多い園では、9月中下旬に、ナシ「あきづき」や晩生種に対し追加防除を行う。
ハマキムシ 類	全域	－	平年並	新梢、果実での被害発生ほ場割 合は平年並であった（±）。	

注) 予報の根拠の中で（＋）は多発要因、（－）は少発要因、（±）は平年並要因であることを示す。

○注意が必要な病害虫

リンゴ ナシ	<p>■カメムシ類</p> <p>リンゴ、ナシの果実で被害が確認されており、平年より高い発生ほ場割合となっています。</p> <p>9月に入ってから、フェロモントラップへの誘殺が急増した地点があるため、山沿いのほ場を中心に飛来が増えることも考えられます。ほ場への飛来状況を確認し、多数の飛来が確認された場合は薬剤散布を実施してください（令和6年7月30日付け令和6年度病害虫発生予察情報注意報第3号参照）。</p>
果樹共通	<p>■ハスモンヨトウ</p> <p>病害虫防除所の野菜調査ほ場に設置したフェロモントラップへの誘殺が増加しています。</p> <p>果樹においてもリンゴやブドウで葉の食害が確認されています。今後発生が多くなることが懸念されるので、ほ場をよく確認して若齢幼虫期に捕殺してください。</p> <p>■ハマキムシ類、ナシヒメシクイ、カイガラムシ類、ナミハダニ</p> <p>樹上越冬害虫については、密度低下を図るため9月下旬頃に麻袋や肥料袋などを枝幹部に厚く巻き付けてバンド誘殺を行い、翌2月上旬に取り外して適切に処分してください。</p>

より詳しい発生状況や防除対策は、

福島県病害虫防除所ホームページ<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/>をご覧ください。

お問い合わせは TEL:024-958-1709、FAX:024-958-1727 または e-mail:yosatsu@pref.fukushima.lg.jp へお願いします。